第１３回熊谷市入札適正化委員会　会議の概要

１　開催日時　平成２４年２月１３日（月）　午後２時開会

２　開催場所　熊谷市役所３０３会議室

３　会議の内容

⑴　開会

⑵　委員長あいさつ

⑶　議事

ア　入札手続の運用状況に関する報告

イ　抽出事案に関する審議

＜市長部局＞

・　一般競争入札　３件／対象案件　４４件

・　指名競争入札　３件／対象案件　４１件

・　随意契約　　１件／対象案件　　５件

＜水道部＞

・　一般競争入札　１件／対象案件　３６件

・　指名競争入札　２件／対象案件　１９件

・　随意契約　　０件／対象案件　　０件

⑷　その他

⑸　閉会

議事の概要

１　入札手続の運用状況に関する報告

資料に基づき、事務局から、平成２３年９月１日から平成２３年１２月３１日までの建設工事及び工事に係る業務委託の状況概要について説明を行った。

委員からは下記のとおり質疑があり、適宜事務局から回答し、了とされた。

【質疑応答】

委　員：　一般競争入札の事案中「熊谷市立何々小学校ほか何校普通教室空調設備工事」というものが複数件あるが、これは類似した事案であるか、また、事案を分けた理由について。

事務局：　市内の全小学校の普通教室にエアコンを設置する旨の事案である。市内に小学校が２９校あるが、１事案においてほぼ５０教室、といった方法で８等分するかたちを採った。この分け方については、起工時期、入札に要する日数、工期等から勘案し、決定した。

２　抽出事案に関する審議

委員により抽出された下記事案について、事務局から説明を行った。

委員からは下記のとおり質疑があり、適宜事務局から回答し、了とされた。

＜市長部局＞

事案　１　・・・　熊谷市立石原小学校ほか３校普通教室空調設備工事【一般競争入札】

【質疑応答】

委　員：　類似した事案がほかにも７件あるが、いずれも類似した落札率であり、また、落札率が高止まりしているようである。この状況について。

事務局：　御指摘のとおり落札率が高止まりであったこと、また、発注業種を管工事業及び電気工事業としたなか、８事案中７者が管工事業の業者であったことなどから、入札参加各者に対し事情聴取を行った。その結果、とくに落札を決定するにあたって支障となるようなことはなかった。また、落札率についても、算定根拠等を事情聴取した結果、妥当であると判断した。

委　員：　学校によりガスヒートポンプエアコン方式と電気ヒートポンプエアコン方式とに分かれている理由について。

事務局：　都市ガスを引くことのできる学校はガス方式により、都市ガスを引くことができない学校は電気方式により、という方法を採ったものである。ガス方式を採用したのが１０校、電気方式を採用したのが１９校である。ライフサイクルコストから考えるとガス方式が有利であり、また、二酸化炭素排出量に関しても、ガス方式が有利であるので、都市ガスを引くことができる限りにおいてガス方式を採用した。

委　員：　「一抜け方式」による入札の方法について。

事務局：　建設工事等については、電子入札を採用している。電子入札は紙入札と違い、入札参加をエントリーする期間があり、エントリー期間中に見積もりし、入札日を迎える。その日に入札を希望する全ての案件に入札額を入力する。開札の日には既に入札を締め切っているので、入札日に札を入れた実績のみで開札するごと

に結果的に一抜けになっていく、ということになる。

事案 ２ ・・・ Ｈ２３熊谷第１処理分区下水道工事（第２工区）【一般競争入札】
【質疑応答】
委　員：　辞退者が多いように見受けられるが、東日本大震災の影響による資材価格の高騰などに起因するのか否かについて。
事務局：　辞退理由の主だったものは、現場代理人、主任技術者等の人員確保の困難性と推測される。
　工事に係る資材単価については、県で定める標準単価により設計をしており、現に予定価格より低額で入札している業者がいることから、御指摘の点は問題ないと考える。

事案 ３ ・・・ 市道大里１号線道路改良工事【一般競争入札・総合評価方式】
【質疑応答】
委　員：　総合評価方式に係る配点票のうち、「除雪契約実績」とはどのようなものであるか。また、契約を結んでいる業者数について。
事務局：　積雪時に、除雪に関し協力していただく委託契約を結んでいるものである。平成２１年度は２１者、平成２２年度は２０者である。
委　員：　総合評価方式を採用した理由について。
事務局：　設計金額の高い事案を優先的に発注課と調整をしている。明確な採用条件はないが、技術面や、国の補助事業であるという点などから選定している。

事案 ４ ・・・ 熊谷市立大麻生中学校プール塗装及び設備改修工事【指名競争入札】
【質疑応答】
委　員：　予定価格と落札金額が同額となっていることの理由について。
事務局：　市の積算額とたまたま金額が合った、と思われる。応札状況をみても、１者は最低制限価格を下回り失格となっており、更に３者は予定価格超過となっている。とくに問題があったとは考えていない。
委　員：　最低制限価格の設定方法について。
事務局：　費目型の計算による方法を採用している。

事案 ５ ・・・ 排水路整備工事（津田）【指名競争入札】
【質疑応答】
とくになし。

事案 ６ ・・・ 熊谷市本庁舎埋設ガス管改修工事【随意契約】
【質疑応答】
委　員：　１者での随意契約となっているが、他の業者ではできない工事であったかについて。
事務局：　ガス工事に関する供給規程があり、施工後にも責任を負わなくてはならない、という条件から考慮した場合、東京ガス以外には選択肢がなかった。

事案 ７ ・・・ 玉井東通線用地測量・地質調査業務委託【指名競争入札】

【質疑応答】

委　員：　市内本店業者と市内代理業者をそれぞれ指名業者としているが、指名業者の選定方法について。

事務局：　本事案は、測量、地質調査及び土地調査が含まれた業務委託である。このため、以上の３つの仕事ができる能力のある業者を検討したが、市内本店業者では３者しか見受けられなかった。結果、指名業者数が不足するため、市内代理業者のうち３者を加えるかたちをとった。

＜水道部＞

事案 ８ ・・・ 佐谷田地内配水管布設工事（第２工区）【一般競争入札】

【質疑応答】

とくになし。

事案 ９ ・・・ 東部浄水場県水用次亜注入設備更新工事【指名競争入札】

【質疑応答】

委　員：　工事内容について、また、工事規模の妥当性について。

事務局：　市の水道は、自己水と埼玉県行田浄水場から引く県水とを混合している。県水は、行田浄水場で次亜塩素酸ナトリウムを調合し浄化したうえで送られてくるのだが、万一その浄化処理に支障が生じたときのために、自己対応できるような設備を持っていなければならない。この設備に関する工事である。次亜塩素酸ナトリウムの含有値については、末端測定値における基準が定められており、この条件を満たすことが求められている。東部浄水場には常に膨大な水量が送水されており、技術的に大変困難な工事である、と考える。

事案 10 ・・・ 江南浄水場第３配水池耐震診断業務委託【指名競争入札】

【質疑応答】

とくになし。

３　その他

入札制度に関する質疑があり、事務局が回答し、了とされた。

【質疑応答】

委　員：　最低制限価格の費目による算定に関し、県の制度と市の制度との関係について。

事務局：　県は今年度、現場管理費に係る比率を切り替えている。本市は費目型の設定にしたのが昨年度からであった。この段階では、従前の比率により運用していた。今後は、県及び各市町の状況を調査し、また本市での入札状況などから検討のうえ判断していこうと考えている。

以上で、閉会となった。